

## 製品の幾何特性仕様 (GPS) (JIS B 0401-1:2016) について

2016年3月、永年利用されてきた「寸法公差及びはめあいの方式—第1部：公差，寸法差及びはめあいの基礎 (JIS B 0401-1:1998)」が全面的に改正され，下記のような表現になって公布された。

<b>新規格</b>	<b>JIS B 0401-1:2016</b> 製品の幾何特性仕様 (GPS) —長さに関わるサイズ公差の ISO コード方式 —第1部：サイズ公差，サイズ差及びはめあいの基礎
<b>旧規格</b>	<b>JIS B 0401-1:1998</b> 寸法公差及びはめあいの方式 —第1部：公差，寸法差及びはめあいの基礎

新旧規格の内容を比べてみると，考え方および数値そのものにはまったく変わりがないが，使われている用語が**本紙裏面に示す表**のように大幅に改正されている。ものづくりのグローバル化が顕著な時代でもあるので，読者諸氏も，新たな用語を適切に活用されたい。

大西清設計製図研究会

「JIS にもとづく 機械設計製図便覧 (第12版)」

「JIS にもとづく 機械設計製図便覧 (第12版) ワイド版」

「JIS にもとづく 標準製図法 (第13全訂版)」

「基礎製図 (第5版)」

オーム社

## 主な用語の新旧対比

新規格 JIS B 0401-1 : 2016		旧規格 JIS B 0401-1 : 1998	
箇条番号	用語	箇条番号	用語
3.1.1	サイズ形体	—	—
3.1.2	図示外形形体	—	—
3.2.1	<b>図示サイズ</b>	4.3.1	基準寸法
3.2.2	<b>当てはめサイズ</b>	4.3.2	実寸法
3.2.3	<b>許容限界サイズ</b>	4.3.3	許容限界寸法
3.2.3.1	<b>上の許容サイズ</b>	4.3.3.1	最大許容寸法
3.2.3.2	<b>下の許容サイズ</b>	4.3.3.2	最小許容寸法
3.2.4	<b>サイズ差</b>	4.6	寸法差
3.2.5.1	<b>上の許容差</b>	4.6.1.1	上の寸法許容差
3.2.5.2	<b>下の許容差</b>	4.6.1.2	下の寸法許容差
3.2.6	<b>基礎となる許容差</b>	4.6.2	基礎となる寸法許容差
3.2.7	$\Delta$ 値	—	—
3.2.8	<b>サイズ公差</b>	4.7	寸法公差
3.2.8.1	サイズ公差許容限界	—	—
3.2.8.2	<b>基本サイズ公差</b>	4.7.1	基本公差
3.2.8.3	<b>基本サイズ公差等級</b>	4.7.2	公差等級
3.2.8.4	<b>サイズ許容区間</b>	4.7.3	公差域
3.2.8.5	<b>公差クラス</b>	4.7.4	公差域クラス
3.3.4	<b>はめあい幅</b>	4.10.4	はめあいの変動量
3.4.1	<b>ISO はめあい方式</b>	4.11	はめあい方式
3.4.1.1	<b>穴基準はめあい方式</b>	4.11.2	穴基準はめあい
3.4.1.2	<b>軸基準はめあい方式</b>	4.11.1	軸基準はめあい
—	—	4.3.2.1	局部実寸法
—	—	4.4	寸法公差方式
—	—	4.5	基準線
—	—	4.7.5	公差単位

### [参考]

- (長さ、角度、位置の総称としての)寸法 ➔ 寸法  
 (長さや直径を意味する)寸法 ➔ サイズ  
 (位置や距離を意味する)寸法 ➔ 位置  
 (長さや直径の)寸法公差 ➔ サイズ公差(長さや直径に限る)  
 (位置の)寸法公差 ➔ 幾何公差(位置に限る)  
 寸法線 ➔ 寸法線(変更なし)  
 寸法補助線 ➔ 寸法補助線(変更なし)  
 理論寸法(理論的に正確な寸法) ➔ 理論寸法(変更なし)